

Wis NEWS Square

February 2012
創刊号

認定インキュベーション支援施設 ウィズスクエア横浜

<http://www.office-tandk.com>



今を輝くウィズな顔

メタフロンティア
代表兼チーフコンサルタント

柴田賀昭さん

Yoshiaki SHIBATA

今を輝くウィズの顔を紹介するコーナー。横浜版第1号にふさわしく、2012年1月5日に会社を設立したばかりのニューフェイス、柴田賀昭さんにお話を聞くことができた。柴田さんは一昨年に長年勤務していたソニー株式会社を退職し、独立。会社を立ち上げた今の率直な心境や今後の抱負を伺った。

「昨年準備を進めていたのですが、会社として新たなスタートを迎えることができたのは一つの節目となりました。でも、仕事自体は変わらず今までの活動の延長なので、実感が沸くというより不思議な感覚だなあ…というのが正直な感想ですね。ただ、会社設立にあたりウィズの仲間である司法書士や税理士の方々に専門的なことを色々教えていただいたのですが、初めて聞くことも多く、自分はいかに世の中のことを知らなかったか気付かされました(笑)。たぶん、会社を作ることも、この先何年も続けていくことの方がはるかに難しいことなんだろうと思います」

時折笑顔浮かべながら気さくに語る柴田さん。彼の主な活動内容は業務用映像技術に関するコンサルティングである。中でも映像機器メーカーやユーザー(放送局や映像制作会社など)が自らの映像技術を国際標準に打ち出したい場合に支援をしていくというサービスが今後の活動内容の中心にある。そのためにも、世界の業務用映像分野の技術のルール決めをしている『SMPTE』(米国映画テレビ技術者協会)という団体の会議に定期的に参加しながら新しい提案活動を進めている。

「前職で10年ほど業務用映像機器の開発エンジニアをしていました。その時に得た技術知識とノウハウ、ヒューマンネットワークを使いながら、当面の業務としては以前から温めていた自身のアイデアを国際標準規格にすべく提案していき、それを自分たちのビジネスに活かしたいという人をクライアントとして募ることが最初のステップですね。将来は自らの技術を国際標準にしたいというお客様の要望を請け負っていくのがメインの活動になると思います」



『SMPTE』の年次技術会議は毎年ロサンゼルスで開催。映像分野の最先端の研究開発成果が報告される他、標準化すべき技術課題などが取り上げられ、議論が展開されている

写真: SMPTE主催の学会で発表する柴田さん

実は既に、柴田さん自身が大きな手応えを感じた瞬間があった。昨年10月に開催された『SMPTE』が主催する学会で、標準化後10年以上経ってもほとんど活用されていなかった『UMID』(映像素材を区別するための固有識別子)の必要性と追加ルールの標準化を提案した。柴田さんの発表は会場において高い関心や評価を得て、団体のメインHPにも紹介された。

「とても驚きましたし素直に嬉しく思います。『SMPTE』は放送・映像技術全般の国際標準規格を定めている団体で、フィルムの時代から映像文化と共に歩いてきた長い歴史のある組織なんです。昨年10月にその団体が主催する学会で発表をして有難く評価をいただき、12月にはその提案を標準化委員会へ持って行き、具体的に検討を進めるための作業チームの設置をお願いしました」

海外で活躍し幅広い視野をもつ柴田さんは、自分自身が日本人であることを常に意識している。世界の映像技術のトレンドと比較すると日本の現状には様々な問題点があるという。特に世界的潮流である業務用映像制作のファイルベース運用(IT技術を駆使し、映像データをファイルとして取り扱う)は、日本の放送局などではまだ始まったばかりであるため、それを国内で推進する活動もしている。

「全ての技術的な面で世界の中でも日本は最先端を走っていると思われがちですが、実はそうではないんです。モノ作りの面では確かに発達していますが、モノを作るための技術的なルール作りのほとんどは、欧米に独占されてしまっているんです。だからもっと、日本人として自身のアイデアを提案し日本のプレゼンスを示していきたいと考えています」

メタフロンティアは新たな職種への“挑戦”という意味が込められている。映像業界では国内初の独立系の技術コンサルタントを目指すとともに、日本人であることを打ち出したいという願いも込め、会社の英語表記には“.jp”にこだわり『metaFrontier.jp』とつけた。

「技術コンサルは欧米で既に当たり前となっている職業ですが、日本でもビジネスとして成り立つのかどうか最も確かめたかったことなんです。まずはこの半年間を全力で取り組み、その可能性を見極めたいと思います。そして将来的には、映像業界に日本が文化的にも世界へアピールする上で、自らが関わった技術をどう活用してもらおうか。そこが僕自身の一番の期待であり挑戦かもしれません」

Profile

- 1965年 兵庫県生まれ
- 1991年 ソニー株式会社へ入社。中央研究所にて半導体関連の研究に従事した後、マルチメディア分野に活動の舞台を移す。
- 1998年 MPEG-7国際標準化活動に参画し、作業部会議長やプロジェクトエディタを歴任する。
- 2001年 業務用映像分野に活動を移し、SMPTEにおけるUMIDの規格改定に関与した他、映像素材への電子付箋である「エッセンスマーク」を発明し、それらの実用化に大きく貢献する。
- 2003年 XDCAM(業務用映像機器)の開発プロジェクトに参画し、そのメタデータ関連の開発において中心的な役割を果たす。その間40件以上の関連特許を出願し、半数以上の出願の権利化を達成する。
- 2010年 放送・映像メディア業界における国内初のフリーの技術コンサルタントを目指すべく、ソニー株式会社を退職し独立。一年の準備期間を経て2012年にメタフロンティア合同会社を設立し現在に至る。

メタフロンティアのHP <http://www.metafrontier.jp>

2月のお役立ち情報 今年も確定申告シーズンの到来! 【解説】税理士 石橋文さん
「いつだって、早めの対処を心掛けたい」判ってはいても、必ず慌ててしまう税務に関するテーマです。

◆確定申告・代理申告について◆

・個人事業者の場合は翌年3月15日まで ・法人の場合は決算日から2か月以内
※上記期間内に、申告書を作成・提出しなければなりません。特に法人の場合は、180種類ある別表から必要なものを選んで作成するため、専門家でなければなかなか作成することができません。

◆税務相談とは?◆

経営者になると多くの義務や作業が発生してきます。ルールの複雑な税金関係は注意が必要で、経営サイドで経費と思っても税務サイドでは経費と認めないものもあり、知らずに放置すると加算税や延滞税といったペナルティが課せられることもあります。そんな日々発生する疑問にお答えしたり、節税対策の相談を受けています。

◆その他 税務調査の立会などについて◆

概ね3~5年おきに入るといわれる税務調査に立会いをします。税務署サイドと納税者の処理で意見が食い違う場合にも法令や判例等に基づきその妥当性を主張したりします。税理士を敷居が高いとお考えの方が多くですが、料金はご要望のサービスに応じて異なるはず。避けたいのは、我流の経理処理に手間をかけて、貴重な時間を無駄にすること。更にその処理が正しくなければ、結局多くの税金を支払わなければならない、最終的に損をしてしまいます。専門家を活用して、安心して事業に専念することが、成功への近道かもしれません。

